

自転車利用実態定点調査報告

平成27年 11 月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成27年 10 月 28 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概 要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行経路			車種		用途		危険走行行為				
	車道	歩道	その他	普通	電動	歩道	車道	歩道	車道	歩道	その他	
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												

調査日時:	平成 27 年 10 月 28 日
天気:	晴
調査時間:	8:00 ~ 8:50

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、49%であり、車道右側走行率は、16%・車道中央走行率は、24%・路側帯走行率は、11%の結果であった。

◎危険運転行為は、片手運転(10件)・肩に荷物(8件)・並列運転(6件)・ハンドルに荷物/過積載(各4件)・カバン背負い(3件)・脇見運転(1件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

車道左側走行率が、約半数を占めており、比較的ルール・マナーの遵守率が、高い。

さらに、車道右側走行者や車道中央走行者が、左側走行者に転じれば、更なる車道左側走行率の上昇に繋がると考慮される。

なお、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(42件)の約25%(10件)を占めていた。

事故を招きやすいため、行わないことが望ましい

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数1000人)の5割程度である。

校内には、駐輪場が複数整備(総収容台数700台)されていた。

収容台数に余裕があるのは、今後の自転車通学生の増加(現在、各学年8クラスであるが、将来10クラス体制になった場合を考慮)に対応してとのことである。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、2箇所(正門・東門)存在していた。(調査は、自転車利用者数の多い正門にて実施)

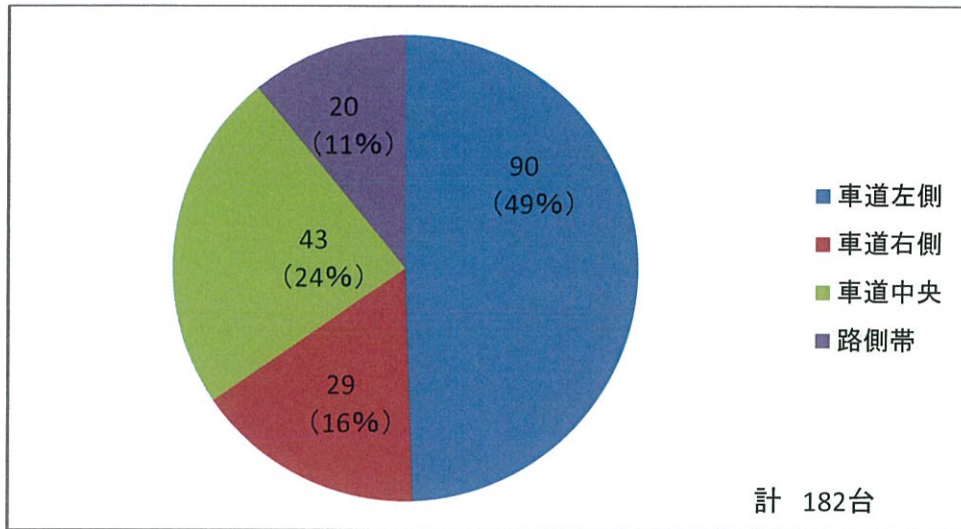
なお、同校正門の手前の道路は、ゾーン20に指定されていた。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

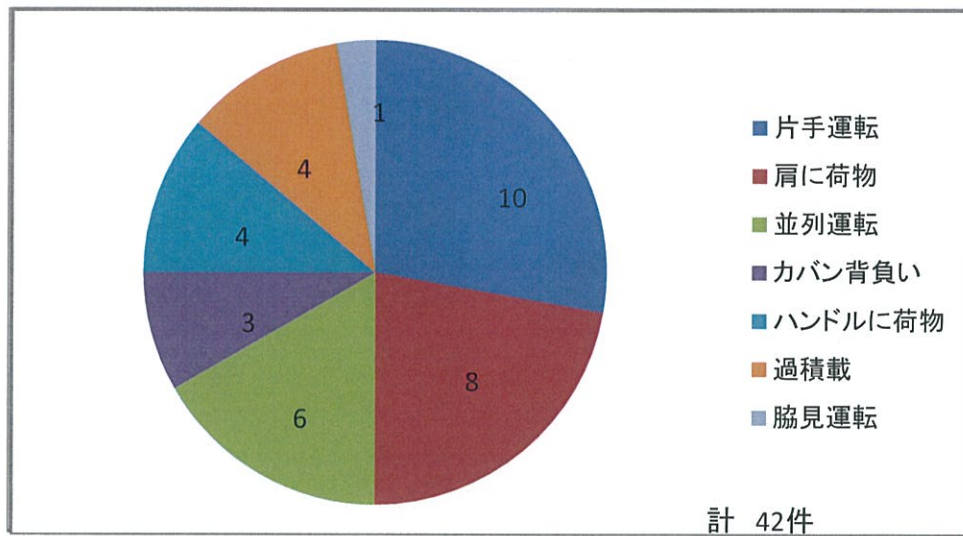
因みに、同校では、教諭による自転車通学の指導は、特に行われていなかったが、交通安全啓発の一環として、風紀委員会主導による自転車のルール・マナーについてのアンケート調査を実施し、同回答を基に、生徒同士の話し合いを行っている。

なお、本年度に全校生徒を対象に自転車安全教室を開催する予定となっている。

	
<p>自転車駐輪場 A</p>	<p>自転車駐輪場 B</p>
	
<p>校門前道路(校門を背に右側)</p>	<p>同反対側(校門を背に左側)</p>
	
<p>校門前直進道路(校門を背に前方)</p>	



走行空間



危険運転行為

最寄図

